

会 議 録

会 議 の 名 称		令和8年度第2回豊中市文化芸術振興審議会		
開 催 日 時		令和8年（2026年）8月27日（木）13時00分～14時15分		
開 催 場 所		豊中市役所第二庁舎4階第1会議室	公 開 の 可 否	☒ 可・ ☐ 不可・ ☐ 一部不可
事 務 局		都市活力部 魅力文化創造課	傍 聴 者 数	0人
公開しなかった理由				
出席者	委 員	天羽委員、上田委員、大本委員、河原委員、古後委員、後藤委員、橋爪委員（会長）、森本委員、山下委員		
	事 務 局	高島都市活力部長 魅力文化創造課 良本課長、山森主幹、垣内課長補佐、善利副主幹、梅野係長、石橋係長、渡邊主事、吉川		
	そ の 他			
議 題		1. 令和8年度第1回文化芸術振興審議会の振り返り 2. 令和7年度豊中市文化芸術推進基本計画の進捗状況について 3. 部活動の地域展開について 4. その他		
審 議 等 の 概 要 （主な発言要旨）		別紙のとおり		

令和8年度第2回豊中市文化芸術振興審議会議事録概要

日時：令和8年8月27日（木）13時00分～14時15分

開催方式：対面

出席者：天羽委員、上田委員、大本委員、河原委員、古後委員、後藤委員、橋爪委員（会長）、森本委員、山下委員

事務局：高島部長、良本課長、山森主幹、垣内課長補佐、善利副主幹、梅野係長、石橋係長、渡邊主事、吉川

傍聴者：0名

（１）開会

- ・事務局挨拶
- ・開会宣言
- ・審議会の成立要件確認
- ・審議会の傍聴確認
- ・資料の確認

資料1 令和8年度第1回豊中市文化芸術振興審議会会議録

資料2 令和7年度（2025年度）豊中市文化芸術推進基本計画に基づく施策実施状況

資料3 部活動の地域展開の状況について

参考資料 豊中市文化芸術推進基本計画

（２）案件

1. 令和8年度第1回文化芸術振興審議会の振り返り

（事務局）

- ・資料1に基づき説明。
- ・あわせて、前回委員から質問のあった「文化芸術関連支出割合」について報告。

（会長）

- ・ただ今の説明について、質問・意見はないか。

（委員）

- ・特になし。

2. 令和7年度豊中市文化芸術推進基本計画の進捗状況について

（事務局）

- ・資料2に基づき説明。

（会長）

- ・ただ今の説明について、質問・意見はないか。

(委員)

- ・文化施策を担うプレーヤー、市のパートナーとなる団体がどの程度存在するのか。特に南部地域において、指定管理者以外にも行政と連携できる主体を育てる必要があるのではないか。

(事務局)

- ・現在、日本センチュリー交響楽団、大阪音楽大学、ライオンズクラブ、市民団体などと連携している。また、助成金制度や広報支援を通じ、市民団体の活動支援も行っているが、市としては、これも連携の一つの形と考えている。

(委員)

- ・音楽分野以外にも、行政と事業を共に担える団体や人材を育てていくことが重要である。

(委員)

- ・現状と課題を総括してまとめてもらった中で、工夫は何が必要かについて考えることが、計画の策定に向けて必要と認識した。
- ・文化芸術分野だけでなく、福祉や子育て支援など他分野とのネットワーク構築を進めるべきではないか。

(事務局)

- ・現計画でも他分野との連携は推進事項として位置づけている。特に、本市は子育てしやすさナンバーワンプロジェクトを推進しているので、子育て関連部局との連携など、庁内横断的な取組を進めていきたい。

(委員)

- ・助成金は2分の1補助が基本であるので、団体によってはこどもの参加費を求めない事業を実施しているものもあり、補助率が今のままでは、継続が難しいとの声もある。

(事務局)

- ・助成金による支援と行政が直接提供する文化と接する機会の提供との役割分担が必要である。参加費負担等により文化芸術へアクセスできない市民が生じないように、行政としても検討していく。

(委員)

- ・「こども音楽フェスティバル」を市と一緒に開催しているが、来場者の年齢制限を設けていない。低年齢児の参加がある事業で、騒がしくなる場合への対応はどのようにしているのか。

(事務局)

- ・日本センチュリー交響楽団と一緒に実施している、「0歳からのコンサート」では、騒いでもよい、走り回ってもよいようにマット上で鑑賞するなど、小さな子と親が参加しやすい環境づくりを行っている。また演奏者が子どもに近づくなど、子ども主体の空間づくりを行っている。

(委員)

- ・豊中音楽コンクールについて、全国的にレベルの高いコンクールである一方、豊中市に在住の方、近隣にお住まいの方の参加が少ないため、豊中市民への直接的な還元ができていないことや市民参加の視点はどうか考えるか。

(事務局)

- ・コンクールは全国に向けて「音楽あふれるまち豊中」を発信することに意義があると考えている。受賞者が国内外で活躍することで、コンクールが登竜門となり、さらに「音楽あふれるまち」の認知度の向上につながると考えている。

(委員)

- ・受賞者記念コンサートは、レベルの高い演奏会なので、もっと市民が来場できるように、広報強化を検討してほしい。

(事務局)

- ・コンサートのレベルが高く、市民にも聞いてほしいと考えている。より多くの方にご来場いただけるように広報の仕方等を、今後の課題として検討したい。

(委員)

- ・世界のしょうない音楽祭・ワークショップについて、固定参加者が増えており、事業内容の見直し時期に来ているのではないかと考えている。また南部地域活性化との関連性も検証が必要である。

(事務局)

- ・自転車や徒歩の来場者が多いので、近隣の方の参加が多いと考えている。事業開始当初は、音楽活動の経験がない人が集まって一緒に曲を作り上げるというコンセプトでスタートした事業であるが、長年継続している事業であり、ブラッシュアップの必要性は認識している。事業効果についても検証していきたい。

(委員)

- ・計画指標と評価について、進捗状況を表しているのか、評価なのかの違いが分かりにくい。また、まちへの愛着を測る指標が文化芸術施策の成果指標として適切か疑問がある。

(事務局)

- ・現在の数値は、計画進捗中のものであり、目標に対してどれくらい進捗したかを表しており、最終評価は計画終了時に行う。指標は評価の際の参考とするが、指標ではわからない部分は、アンケートやヒアリングなど別の方法で把握する予定である。また、愛着度については文化芸術のみで形成されるものではないが、文化芸術がその一要素であると考え、参考指標としている。

(委員)

- ・文化施策との関連では、「まちへの愛着」よりも「文化施設が充実している」の項目の方が直接的な指標となるのではないか。

(事務局)

- ・現在の計画策定時に設けた指標であるので、次期計画策定時の指標見直しの参考としたい。

(委員)

- ・音楽以外のジャンルの割合はどの程度か。

(事務局)

- ・数字として示すことはできない。

(委員)

- ・こどものアウトリーチ事業では、親への波及効果も考えているのか。

(事務局)

- ・指定管理者の事業で、アーティストを学校に派遣した回数は把握しているが、親への波及効果は把握していない。

(委員)

- ・アウトリーチ事業の成果として、親世代も芸術施設に向かわせる可能性も考慮に入れて欲しい。

(事務局)

- ・こども園へのアウトリーチ事業では、こどもの作品を保護者にも見てもらえるようにしており、家でも作品を制作できるように報告書を保護者にお渡ししている。

(委員)

- ・アウトリーチ事業の長期的効果や、他にあまりないレジデントアーティスト事業の成果が本資料に十分反映されていない。豊中の特色ある取組であり、育成状況、公

演実績、来場者数、波及効果なども成果指標として整理できるのではないか。

（事務局）

- ・効果や成果について、今後の検証手法や把握について、改めて検討したい。

（会長）

- ・南部地域活性の指標について、基準の令和元年とR7年度を比較すると、「文化的なまちと思う人の割合」は増加しているが、「南部地域での事業実施件数」は減少している。原因は何か。

（事務局）

- ・次回までに調べる。

（会長）

- ・その他何か質問・意見はないか。

（委員）

- ・特になし。

3. 部活動の地域展開について

（事務局）

- ・資料3に基づき説明。

（会長）

- ・ただ今の説明について、質問・意見はないか。

（委員）

- ・文化系部活動の地域展開において、一番の課題は何か。

（事務局）

- ・担い手の高齢化が大きな課題である。そのため、ポータルサイト運営事業者による伴走支援も予定している。

（委員）

- ・今後、認定団体を募集するのか。

（事務局）

- ・12月から公募する予定である。

（委員）

- ・吹奏楽部などは、楽器を置くスペースが課題となっている。

(事務局)

- ・学校などの公共施設が利用できるように考えている。

(委員)

- ・認定団体への補助制度はあるのか。

(事務局)

- ・現時点で団体補助は想定していない。一方で保護者への支援等は今後検討課題となっている。
- ・団体の持続可能性、受益者負担、公費負担のバランスなどについて、引き続き教育委員会と連携のうえ、協議を進めていく。

(委員)

- ・スウェーデンやデンマークを研究しているが、費用負担は、国が1/3、市が1/3、本人が1/3である。本格的にピアニストを目指せる内容となっている。部活動に行く途中の事故も起きており、引き受けるのを躊躇する原因となっている。

(事務局)

- ・教育委員会と市長部局で立ち位置が少し違っている。教育委員会は、セーフティネットの考えから、利用者の補助を考えているが、ニーズに合わせた指導を求めるのであれば、団体補助も検討した方がよいと考えている。

(委員)

- ・長野県で地域移行クラブチームに講師として、名を連ねてほしいとの話があった。その団体は補助金をもらっていたので、市に伴走支援として補助金をもらうことができると思う。

(事務局)

- ・補助金にならない形も考えられるので、一定、整理が必要と考える。

(委員)

- ・地域クラブ活動にアーティストが関われば、若手芸術家の活動支援にもつながるのではないかと。

(事務局)

- ・制度設計の中で引き続き検討したい。

4. その他

(事務局)

- ・ 本日の会議録および次回審議会の実施時期について説明。

(会長)

- ・ その他全体を通じて何か質問・意見はないか。

(委員)

- ・ 特になし。

(会長)

- ・ 本日本定していた案件は以上で全て終了した。これで閉会する。

以上